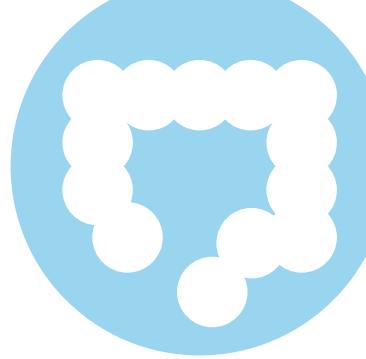


【Tf大腸がん(便潜血)検査】 (便中ヘモグロビン、便中トランスフェリン検査)



必ずお読みください

大腸以外の血液が混入すると正しい検査ができなくなります。

痔などによる出血時や、鼻や歯肉からの著しい出血時の検査は避け、生理中の場合は生理終了後1週間経過してから検査を実施してください。

大腸がん検査は1日法、2日法があります。『2日法』は2日続けて検体を採取してください。

検体採取後はすみやかにご返送ください。

以下の方は 検査対象外 となります

大腸がんと診断、治療されている方、大腸の病気で既に病院にかかっている方

ご不明な点などございましたら下記までご連絡ください(平日9:00~17:15)

TEL:0120-82-1213(H.U. POCKeT株式会社)



検査ってどんなことをするの?

便中に血液が混在しているかどうかを、血液の成分【ヘモグロビン】と【トランスフェリン】を測定して調べます。

ヘモグロビンに比べ、トランスフェリンは熱や時間の経過などの環境の変化でも劣化しにくいので、より正確に微量の潜血でも調べることができます。



最近、食生活の欧米化に伴い、日本人に大腸がんが増えています。

大腸がんは下痢や便秘を繰り返す、便が細くなるなど、いくつかの自覚症状があるといわれています。しかし、それらはある程度進行している場合で、初期には便に血が混じる程度の症状しかできません。がん病変からは、便が通過する際に容易に出血しますが初期のがんでは肉眼で見分けがつかない程度の量です。

そこで微量の出血も見逃さず、人の血液だけに反応する免疫学的便潜血反応が有効になります。大腸がんは早期に発見すれば80%~90%まで治せるといわれています。ただ病巣からの出血がなかったり、非常に少量の場合は拾い上げることができません。また、ポリープなどで陽性の反応がでることもあります。

大腸がんは一般的に病気の進行がゆっくりなため、年に1~2回の定期検診で充分早期発見につながります。大切なことは、この検査を毎年必ず受けることです。



検査って大切なんですね!



詳しい検査内容は次のとおりです。

[基準値] ヘモグロビン100ng/mL未満 トランスフェリン50ng/mL未満

[判定基準] 基準値より高い場合を陽性とする

[検体] 便(専用容器)

[必要日数] 約2週間 休日を含む場合、必要日数よりかかる場合があります

[保存] 室温

[郵送方法] 郵便、受付票と検体を同封してください

※受付票には、住所、氏名、電話番号、生年月日、年齢、性別、アンケートにお答えください。

検査は株式会社日本医学臨床検査研究所が行います。

